

東浦で 暮らす

帰ってくるとなんだかホッとする、
ほどよいまち、東浦です。

認知症初期集中支援チームと 認知症カフェの連携から生まれるチャンス

愛知県 東浦町
社会福祉法人 東浦町社会福祉協議会
東浦町高齢者相談支援センター（東浦包括支援センター）

認知症地域支援推進員 吉田 紗耶
（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）

東浦町マスコットキャラクター「おだいちゃん」
東浦町は徳川家康の母、
於大の方の出生地です！





地域の概要(愛知県東浦町)

人口	50,045人 (平成31年3月末)	高齢者人口	12,647人(高齢化率25.3%) (平成31年3月末)		
面積	31,14km ²	日常生活圏域数	3	地域包括支援センター数	1 (社協包括)
要介護認定率	17.1% (平成31年3月末)		認知症初期集中支援チーム数		1 (社協包括)
主要産業	自動車部品、家具、ディスプレイ等多くの製造業の企業がある。大型ショッピングモールもあり、雇用を創出している。地域の名産は巨峰。				
地域の特徴	名古屋駅までは電車で約30分、車で約40分で到着できる位置にあり、東西南北を車で約15分で移動できるコンパクトな町。気候は暖温帯に属す。隣町に国立長寿医療研究センターがあり、認知症の専門的医療を受けやすい環境にある。コミュニティは6地区に分かれ、高齢化率に差がある。				
推進員数 ※自治体全体で 現在2名配置	平成27年4月に自治体として東浦町高齢者相談支援センターに兼務で設置し、町の認知症施策全般に関わっている。 認知症初期集中支援チーム(1チーム)も設置。				

包括職員13人
C S W兼SC 3人



認知症地域支援推進員2名





東浦町の認知症施策事業①

新オレンジプラン I 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

① ひがしうらオレンジフェスタ

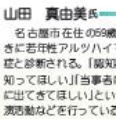


講演会

- とき 10月1日(火)
午後2時～4時(開場:午後1時30分)
- ところ 文化センター
- プログラム
第1部 講演会「認知症当事者の希望と尊厳」
講師 国立長寿医療研究センター
長寿医療研修センター長 遠藤 英俊氏
第2部 対談「認知症、笑顔のままで」
当事者 おれんじドア
も～やっこなごや代表
山田 真由美氏
支援者 名古屋市認知症相談支援センター
社会福祉士 矢野 史穂氏
- 申し込み 不要、当日直接会場へ



遠藤 英俊氏
認知症専門医で、認知症の正しい知識や支援方法を多くの人に理解してもらうために、診療室に留まらず、講演会はもちろん、テレビ朝日「たけしの家庭の医学」などのテレビや雑誌など幅広く分野で活動する行動派医師。



山田 真由美氏
名古屋市在住の59歳、51歳のときに若年性アルツハイマー型認知症と診断される。「認知症のことを知ってほしい!」当事者にもっと外に出てほしい!という思いで講演活動などを行っている。

認知症VR体験会

- とき ①10月1日(火) 午前10時～午後0時30分
②10月2日(水) 第1回:午前10時～午後0時30分
第2回:午後1時30分～4時
※開始1時間前に開場
- ところ 勤労福祉会館
- 内容 認知症の基礎知識や対応方法を学ぶとともに、VR(バーチャリアリティ)で認知症の方の世界を体験する。
- 対象 町内在住、在勤の方
- 定員 各回50名(先着順)
- 申し込み 8月8日(木)～9月25日(水)の平日に電話で問い合わせ先へ



VR(バーチャリアリティ)とは…視覚聴覚に音響や振動で働きかけることによって、本当にその場所にいるかのような感覚になることができる技術です。

認知症サポーター
養成講座

共催/東浦町、高齢者相談支援センター 問い合わせ/高齢者相談支援センター ☎2-2941

② 認知症多職種連携講座



- 日時
平成31年
1/23(水)
18:00～
20:00

- 場所
東浦町勤労福祉会館
2階会議室1
- 対象者(定員80名)
町内医療・介護従事者
民生委員

- 内容
第1部 講演(若年性認知症について)
国立長寿医療研究センター

長寿医療研修センター長 遠藤英俊先生



- 第2部 大府センター監修DVD
「若年性認知症の人とともに歩む」
愛知県若年性認知症総合支援センター
(認知症介護研究・研修大府センター)
室長 山口喜樹様

参加ご希望の方は1/18(金)までに書面にご記入の上、FAXしてください。

主催 東浦町社会福祉協議会東浦町高齢者相談支援センター 共催 東浦町

東浦町高齢者相談支援センター Tel.0562-82-2941 Fax.0562-82-2945



東浦町の認知症施策事業②

新オレンジプラン I 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

③認知症サポーター養成講座

平成30年度の養成人数 1,434人
※キャラバンメイト・サポーター1人
当たり高齢者数 1.8人

県内9位!

【参加者構成】

町内全ての小4・中1、商工会、大型
ショッピングセンター、コンビニ、
地域住民



ボランティアグループによる劇

④認知症サポーター活動応援講座 (フォローアップ講座)

認知症サポーター活動応援講座

認知症をもっと知りたい方や地域での活動を考えている方、ぜひご参加ください。

	とき	内容
【必須】 第1回	7/19 (金) 13:00-15:00	認知症について理解を深めよう! 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長 遠藤英俊医師 東浦町の認知症施策って何だろう? 東浦町高齢者相談支援センター 認知症地域支援推進員
【選択】 第2回 初級編	7/20 (土) 13:00-16:00	わたしたちができることを考えよう! 日本福祉大学健康科学部リハビリテー ション学科作業療法学専攻 助教 采島修志氏
【選択】 第3回 上級編	8/3 (土) 13:00-16:00	認知症をもつ方とのコミュニケーション を学ぼう! 日本福祉大学健康科学部リハビリテー ション学科作業療法学専攻 助教 采島修志氏

※第2回と第3回は両方とも参加も歓迎です!

✓対象 原則、認知症サポーター養成講座を受講したことのある方
※受講したことがない方も参加できますが、7/2(火) 14:00-15:30
(勤労福祉会館)での認知症サポーター養成講座を受講してください。
(認知症サポーター養成講座も東浦町高齢者相談支援センターで申込み可)

✓ところ 勤労福祉会館

✓申し込み
7月18日(木)までの平日に
東浦町高齢者相談支援センター
(☎0562-82-2941)
に電話をしてください。

お気軽にご参加ください!

主催 東浦町社会福祉協議会 東浦町高齢者相談支援センター
協力 東浦町、日本福祉大学、ニッセイ財団「認知症の理解と支援」プロジェクト

認知症サポーター等活動促進事業を展開していく!



東浦町の認知症施策事業③

新オレンジプランⅡ 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

① 認知症初期集中支援チーム

【実施機関】

東浦町高齢者相談支援センター

【チーム員メンバー】

- ・ 認知症サポート医
- ・ 東浦町高齢者相談支援センター職員

【チーム員会議】

月1回実施（各回新規2ケースを支援）

あとで詳しく

認知症 初期集中支援チーム
にお早めにご相談ください

チーム員は
認知症の専門医と医療・介護の専門職で構成されています。

チーム員が対象になる方のお宅に訪問します！

できるだけ早く医療や介護サービスの利用につなげます！

対象者
東浦町にお住まいの40歳以上の方で在宅で生活しており、以下のいずれかに該当する方です。
①認知症の診断を受けていない方 ②継続的な医療サービスを受けていない方
③適切な介護サービスにつながらない方 ④介護サービスが申請している方
⑤医療・介護サービスを受けているが認知症の症状の対応に困っている方

困りごとの例
 1. 最近、おばあちゃん、ゴミ捨ての日が分からなくなっているみたい。目立つようになってきたわ。
 2. 近所のおじちゃん、ゴミ捨ての日が分からなくなっているみたい。心配だな。
 3. 家に閉じこもりがちでなかなか病院にもデイサービスにも行ってくれない、このままじゃ...

お気軽にご相談ください
東浦町高齢者相談支援センター（東浦町勤労福祉会館2階）
☎ 0562-82-2941
※受付時間 平日8:30～17:15

② 認知症ケアパス



新オレンジプランⅢ 若年性認知症施策の強化

認知症サポーター養成講座、広報等で若年性認知症を啓発

新オレンジプランⅣ 認知症の人の介護者への支援

東浦町内の認知症カフェ

- ・ 包括主催型
- ・ コミュニティ型
- ・ ボランティア型



あとで詳しく



東浦町の認知症施策事業④

新オレンジプランⅤ

認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

①認知症高齢者等支援マップ

②認知症高齢者等登録制度

③みまもりねっと
(行方不明高齢者等検索メール配信システム)

④行方不明高齢者等
家族支援事業
(探知機の貸与)

⑤行方不明高齢者等
検索模擬訓練

- ・コミュニティ主催型 2地区
- ・包括主催型 1回



行方不明高齢者役



新オレンジプランⅥ

認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進

ICTの活用

新オレンジプランⅦ 認知症の人やその家族の視点の重視

本人ミーティング
「じぶんサミットin東浦」



認知症の当事者・家族の視点を重視した施策の展開を目指していく！

当事者・認知症サポーター双方のニーズ調査

①当事者向け
「わたしの想いアンケート」

ご家族の想いを聴かせてください

「家族にいて欲しい姿を伝えてください」
(ここではお名前を記入していません)

①日常生活に支障をきたしている
②認知症の進行が心配
③介護負担が大きい
④経済的負担が大きい
⑤認知症の診断が難しい
⑥認知症の診断が難しい
⑦認知症の診断が難しい
⑧認知症の診断が難しい

わたしの想いアンケート

東浦町がご本人とご家族も住み慣れたこの地域でこれからも安心して暮らせるまちを目指していくにあたり、ご本人とご家族の想いを聴かせてください

①認知症の診断が難しい
②認知症の診断が難しい
③認知症の診断が難しい
④認知症の診断が難しい
⑤認知症の診断が難しい
⑥認知症の診断が難しい
⑦認知症の診断が難しい
⑧認知症の診断が難しい

ご協力ありがとうございました

②認知症サポーター向け 日本福祉大学との共同研究



推進員の役割

東浦町の「**地域共生社会**」を実現するための
コーディネーターの1人！

●地域共生社会

生活困窮・雇用・教育・保健・制度の狭間
自殺対策・児童・障害・高齢・多文化共生など



●地域包括ケアシステム

医療・介護・予防・生活支援・住まい

●地域包括支援センターの運営

(総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、介護予防ケアマネジメント業務)

●認知症総合支援事業

(認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チーム)

●在宅医療・介護連携推進事業

●生活支援体制整備事業

●地域ケア会議推進事業



推進員は地域共生社会を目指すための、「認知症」の担当。
他の事業とも連携し、同じ方向を見ていくことが大事。



推進員の役割

そのために、推進員は日頃の業務から得られた
いろいろな**チャンス**を
東浦町の認知症施策事業に結び付け、
実現化していく。

いろんな**チャンス**
を見つけていく。
それは、地域の
宝物になる！





活動の内容の位置づけ

東浦町高齢者相談支援センター

チャンス！

チャンス！

包括主催型認知症カフェ
「ひだまりカフェ」

双方向支援

東浦町認知症初期集中支援チーム



包括のサテライト！ 推進員
(社会福祉士)

チーム員
(保健師)

チャンス！



カフェ参加者 & 初期集中の訪問支援対象者、その家族

どんなチャンスが生まれる！？



初期集中とカフェの連携から生まれるチャンス

- ①配置当初の活動イメージ
- ②推進員活動の歩み（今回紹介する取組に関するもの）
- ③活動の概要
- ④この活動に取組んだきっかけ
- ⑤活動内容
- ⑥活動を進めていく上での工夫・配慮
- ⑦この活動に取組んでの効果



特別な取り組みではありません。
普段の業務の中で自然と実現できた
ものです。
いろいろな事業を実施していく上での
考え方として参考になれば幸いです。



認知症施策関連ガイドライン(手引き等)、取組事例

認知症地域支援推進員

活動事例

 [認知症地域支援推進員活動事例集](#) (2019年3月版) [PDF形式: 18.954KB]



【掲載事例】

- | | |
|----------|----------|
| ・宮崎県日南市 | ・大阪府高槻市 |
| ・宮城県仙台市 | ・東京都武蔵野市 |
| ・香川県綾川町 | ・鹿児島県霧島市 |
| ・群馬県太田市 | ・広島県廿日市市 |
| ・東京都板橋区 | ・愛知県東浦町 |
| ・北海道千歳市 | ・宮崎県新富町 |
| ・長野県大桑村 | ・京都府向日市 |
| ・三重県志摩市 | ・埼玉県鴻巣市 |
| ・新潟県柏崎市 | ・福島県郡山市 |
| ・兵庫県西宮市 | ・栃木県足利市 |
| ・愛知県刈谷市 | ・山口県下関市 |
| ・奈良県河合町 | ・長野県飯島町 |
| ・千葉県我孫子市 | ・新潟県燕市 |
| ・北海道美唄市 | |





①配置当初の活動イメージ

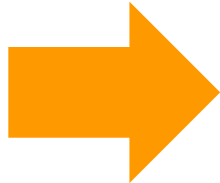
当初はオレンジプランに沿い、東浦町の事業として認知症施策のプログラムを落とし込み、**メニューを揃えていくことに必死**だった。

包括主催の認知症カフェの立ち上げを、転職した平成28年4月に取り組み、5月にオープン。

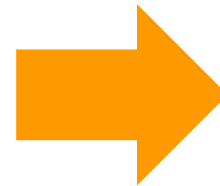
認知症カフェという名前も知らないところからのスタート。

そのときの思い

認知症カフェ???
初めて聞いたし、行ったこともないし、何から何をすれば???
でも何か楽しそうな仕事。
場所は決定しているから見に行こう♪



情報収集から始めよう。
関連書籍、ネットなどで情報をインプット！
他のカフェにも参加してみよう♪
★おすすめ書籍
矢吹知之著（2016）「認知症カフェ読本：知りたいことがわかるQ & Aと実践事例」
中央法規出版



レイアウトをデータにして、必要なものをリストアップ！
周りの職員に見てもらおう。
まずは関係者のみでリハーサルかな。
楽しくが目標！





② 推進員活動の歩み(今回紹介する取組に関するもの)

年度	主に力を入れた活動・取組	得られたこと(課題も含む)
H28	5月から包括主催の認知症カフェ「ひだまりカフェ」を週1回のペースで開始	<p>「まず、やってみる」ことを大切にすることで事業が動き出す。「認知症カフェ」の意味が普及しておらず、周知の必要性を感じ、テレビや新聞の取材を積極的に受け入れる。</p> <p>課題発生! ① 新聞掲載後、約40人の参加! 嬉しいけど、ただの喫茶店のよう…。</p> <p>課題発生! ② 新聞に住民の方が写真に載り、近所から「認知症になったの?」と…。</p>
H28	10月から初期集中のモデル業務を開始 (チーム員会議は月1回で各2ケースを検討している。)	カフェ参加者の中から、訪問支援対象者になり得るケースを推進員から初期集中に随時、情報提供。また、初期集中からカフェを紹介することで、チーム員会議後の様子を推進員がカフェで把握。
H30	4月から初期集中の本格実施を開始	※ひだまりカフェ実績 (H28.5～H31.3末) 延べ実施回数 142回 延べ参加者人数 約2,700人



③活動の概要

カフェと初期集中の**双方向支援**という**有機的な連携**が生まれている。

それが活かされた事例は2つ。

1

カフェ参加者の中から、初期集中の訪問支援対象者になり得る人を推進員から初期集中につないだケース

カフェ

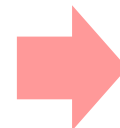


初期集中

2

初期集中からカフェを紹介することで、チーム員会議後の様子を推進員がカフェで把握できたケース

初期集中



カフェ



④この活動に取り組んだきっかけ

初期集中

月1回、新規2人のペースで実施。包括職員が兼務しており、包括業務と連携がスムーズ。認知症サポート医からの助言、専門的なアセスメントやモニタリングが可能。



カフェ

推進員が主となり、週1回のペースで実施。包括のサテライトとしての機能を果たしており、専門職による総合相談対応が可能。



推進員と初期集中が密に連携したことにより、初期集中とカフェの**双方向支援が自然にシステム化**されるきっかけとなる。



④この活動に取り組んだきっかけ

毎週水曜日
10:00~11:30
(祝日・年末年始は除きます)

ひだまりカフェ
～認知症カフェ～

お茶しながら、楽しく
一緒に過ごしませんか♪

参加費 100円
(フンドリンク お菓子1個付)

【プログラム】

認知症ミニ講座、脳トレ、ミニ回想法、コグニサイズなどの運動などがあるが、参加するかは自由。

麻雀や将棋もでき、女性の多い居場所には参加しにくい男性も気軽に参加できるように配慮している。

※プログラムはあまり詰め込み過ぎないようにしている。

MENU

カフェにご協力していただける方を募集中です！

※日によって内容は異なります。

<p>どんな方が参加できるの？</p> <p>認知症の方とご家族、地域の皆様、福祉・医療の専門職などの誰もが参加できます どなたでも大歓迎！</p>	<p>ひだまりカフェのメニュー</p> <p>10:00~11:00</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">カフェタイム</td> <td style="padding: 5px;">認知症や介護の専門相談</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">脳トレ・回想法で認知症予防</td> <td style="padding: 5px;">麻雀・将棋</td> </tr> </table> <p>11:00~11:30</p> <p>認知症ミニ講座&カフェタイム</p>	カフェタイム	認知症や介護の専門相談	脳トレ・回想法で認知症予防	麻雀・将棋
カフェタイム	認知症や介護の専門相談				
脳トレ・回想法で認知症予防	麻雀・将棋				

認知症カフェってなあに？

お茶しながら、脳トレや回想法を楽しんだり、認知症の役立つミニ知識を知ることができたりする場所です。認知症の方でなくてもどなたでも参加できます。



東浦町運行バス「う・ら・ら」バス停「緒川コミュニティセンター」下車 徒歩0分 ※グリーン・ラソは、特定非営利活動法人絆さんが運営している施設です。

主催 東浦町高齢者相談支援センター ☎0562-82-2941



④この活動に取り組んだきっかけ

【参加者数】

1日あたりの平均参加者数は約22人。

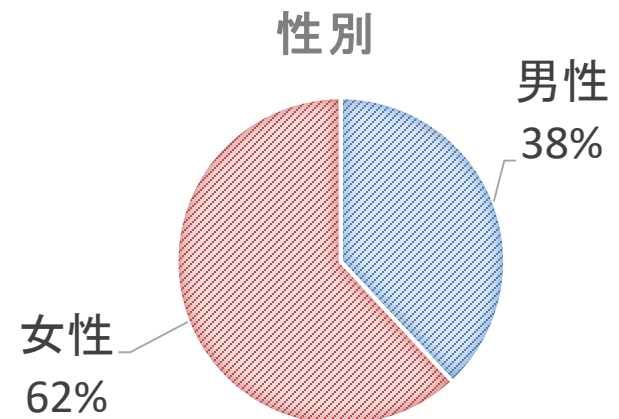
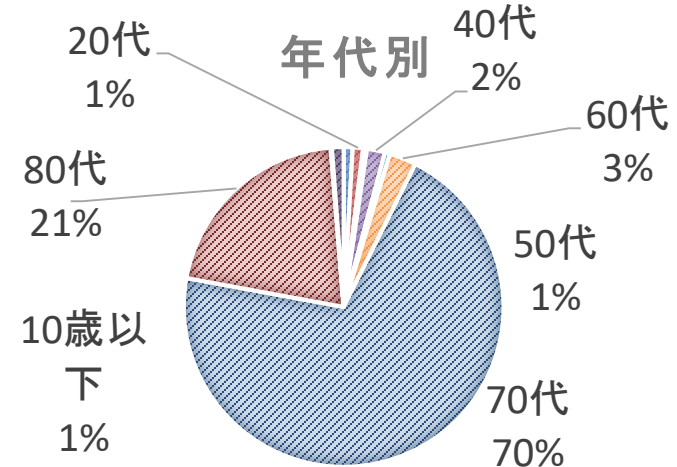
認知症のある本人の参加は全体の約1割～2割を占める。住民によるボランティアは2人で、話し相手や麻雀の相手をするなど、運営の大きな力となっている。

POINT!



※定期的な広報が大事！

- ・社協広報（年2回程度で特別プログラムを構成）
- ・ホームページ
- ・ICT
- ・地域に出向くイベントでチラシを配布
 - ★チラシには認知症カフェ自体の説明を！
推進員として、認知症カフェの正しい知識を地域住民に周知する。
- ・★総合相談で職員から直接、勧誘する。
（同じ職場の人間がいることで安心を得られる。）





④この活動に取り組んだきっかけ

チーム員は
認知症の専門医と
医療・介護の専門職
で構成されています。

認知症
専門医

医療・介護
の専門職

チーム員が対象
になる方のお宅
に訪問します！

できるだけ早く医療や介護サービスの
利用につなげます！

医療
サービス

介護
サービス

認知症 初期集中 支援チーム にお早めに ご相談 ください

対象者

東浦町にお住まいの40歳以上の方で在宅で生活をしており、以下のいずれかに該当する方です。

- ①認知症の診断を受けていない方
- ②継続的な医療サービスを受けていない方
- ③適切な介護サービスにつながついていない方
- ④介護サービスが中断している方
- ⑤医療・介護サービスを受けているが認知症の症状の対応に困っている方

困りごとの例

最近、おばあちゃんの物忘れが目立つようになってきたわ

困りごとの例

近所のおじいちゃん、ゴミ捨てる日が分からなくなっているみたい。心配だな。

困りごとの例

家に閉じこもりがちでなかなか病院にもデイサービスにも行ってくれない。このままじゃ...

お問い合わせ

お気軽にご相談ください

東浦町高齢者相談支援センター(東浦町勤労福祉会館2階)

☎ 0562-82-2941

※受付時間 平日8:30~17:15

【会議実施日】

月1回

(新規2人とモニタリング対象者の支援を検討)

【メンバー】

- ・ 認知症サポート医
(4人が月ごとで輪番制)
- ・ 東浦町高齢者相談支援センター職員
(初期集中、推進員)
- ・ 行政

※介護保険サービスのようなフォーマルサービスの利用に至らないケースの中には、包括主催の認知症カフェ「ひだまりカフェ」に繋がっていることもある。

【チーム員会議の様子】



⑤活動内容

1

カフェ参加者の中から、初期集中の訪問支援対象者になり得る人を推進員から初期集中につないだケース

カフェ



初期集中



推進員

①カフェでの様子を情報提供



Aさん



初期集中



②初期集中で把握している情報を提供



⑤活動内容

Aさん

70歳代後半 男性 高齢者夫婦世帯

平成29年10月にカフェに夫婦で参加。歩行は自立しているが、**無表情**。脳トレのプリントを渡すが取り組まずに無言。飲み物を勧めると、カフェのメニューにはないジュースを希望し、すかさず、妻がメニューにあるお茶で良いと発言。

本人の様子と妻の対応が気になり、**即日、推進員から初期集中に相談し、3日後に初期集中が初回訪問**。初期集中が、既に医療には繋がっており、MCIレベルとの診断が出ているとの情報を妻から得る。妻は、本人が家にいることが多くなり、介護負担を感じていた。カフェにほぼ毎週参加するほかに、初期集中の支援により、事業対象者として介護予防教室を3か月間利用。

初期集中介入前後の**Zarit介護負担尺度の点数は、9点から5点に改善**。現在もカフェに参加し、外出の機会を持つことができおり、**笑顔**が見られ、他の参加者と会話もするようになってきている。



Aさん

⑤活動内容

2

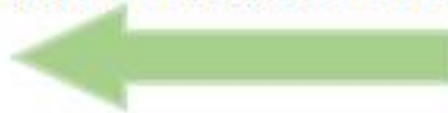
初期集中からカフェを紹介することで、チーム員会議後の様子を推進員がカフェで把握できたケース

初期集中



カフェ

①カフェを紹介
初期集中で把握している情報を提供



推進員



Bさん



初期集中

②カフェでの様子を情報提供





⑤活動内容

Bさん

70歳代前半 男性 妻、長女夫婦との同居世帯

平成29年6月に**フレイルチェック**（※）でフレイルに該当したことをきっかけに町保健センターからの紹介により包括に来所。物忘れの項目に該当があり、翌月に**初期集中がアポなし訪問**。

3年前から怒りっぽくなる、探し物が増える、ひ孫がうるさいとイライラして頬をつねったり、頭を叩いたりする行動が出てきており、妻は介護負担を感じていた。

初期集中からかかりつけ医にアセスメント結果を情報提供し、認知症疾患医療センターを紹介され、認知機能の検査を実施。アルツハイマー型認知症、脳血管認知症の診断を受ける。**初期集中からカフェを紹介し、翌週のカフェに参加**。

カフェにはほぼ毎週参加しており、初期集中介入前後の**Zarit介護負担尺度の点数は、5点から0点に改善**。現在もカフェに参加している。

※フレイルチェック（フレイルスクリーニング事業）…東浦町が国立長寿医療研究センターと協定を結び、要介護・要支援認定を受けていない75歳以上の人に5項目のチェック用紙を郵送。3項目以上に該当したフレイルの人を対象に無料健康チェックを実施している。



Bさん



⑥活動を進めていく上での工夫・配慮

当初

計画段階の早い時期でカフェのレイアウトを作成し、必要なものを一目で分かるように羅列していくことから始めると自分なりのイメージができ、無事にオープンできた。

POINT!



初めから、「完璧なものをやろう」「今後の展開を考えよう」などとあまり気負わず、まず始めてみることで得られるものがある。

現在

当初は、初期集中などの他事業との連携まではイメージできていなかったが、カフェのプログラムや周知などの運営に関する業務に限らず、専門職である推進員目で参加者を見ていくことで、現在の初期集中との双方向支援という有機的連携が生まれている。

POINT!



当初は予想できなかった効果が生まれる「チャンス」を常に推進員として見つけていこうという姿勢が大切。





⑦この活動に取り組んでの効果

Aさん、Bさんのケースともに、推進員はカフェというツールを用いて、初期集中と一緒に、本人への適切な支援、また、介護者である妻の介護負担の軽減を図ることができた。現在もカフェに夫婦で参加していることで外出の機会を持つことができ、どちらのケースもZarit介護負担尺度の点数が改善している。Bさんのケースに至っては0点まで改善できている。



初期集中の支援は、もちろんのこと、実は、カフェではAさん、Bさんの夫婦は同じテーブルに座るようになり、本人は本人同士、妻は妻同士で思いを共有できるよう、推進員が配慮したことでも得られた改善であったと考える。

チャンス！

推進員と初期集中が持つメリットを互いに尊重することで、双方向支援が自然にシステム化された。



同じ思いを共有できる夫婦に出会えるという **チャンス！** が生まれた！

課題

1

認知症カフェ参加者と
認知症サポーターが
出会える **チャンス!**
を作るために、どう
システム化していくか。



2

推進員が初期集中のチー
ム員会議に、初期集中の
チーム員が推進員が主催
する認知症対策担当者会
議に出席することにより、
どうお互いの強みを活か
していくか。





今後の活動・取組の方向性

推進員と初期集中の双方向支援を維持

初期集中の得意なところ

- ・カフェの場ではできない専門的なアセスメント機能 (DASC-21, DBD-13, Zarit8, MMSE)
- ・認知症サポート医からの助言
- ・集中的なモニタリング機能

DBD-13

No	問 内 容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	合計
1	同じことを何度も繰り返す	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	よく物忘れをする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	日常生活が支障をきたしている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
9	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	特別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	



カフェの得意なところ

- ・カフェの場でしかできない形でのインテークとアセスメント機能
- ・初期集中のチーム員会議後のカフェの場でしかできない形でのモニタリング機能
- ・認知症ミニ講座による家族支援
- ・当事者、家族同士の交流

【インテーク】
 ・包括では把握していなかった人がカフェに来るかも？
 ・和やかなカフェの雰囲気の中で自然と相談できる。職員も参加者の1人！一緒に飲み物を飲みながら♪

【モニタリング】
 ・カフェに週1回来てもらうことで、状況を把握できる。
 (歩きがおかしい、顔色が悪いなど)

【アセスメント】
 ・飲み物は自分で用意できる？
 ・漢字の脳トレプリントは得意だと分かる。
 ・麻雀が今でもできる。
 ・集団の中での様子が分かる。

【家族支援】
 ・認知症ミニ講座を行うことで集団の中で気兼ねなく知識を得られる。
 ・介護者同士の出会い





今後の活動・取組の方向性

双方向支援を維持していくことで、カフェや初期集中に限らず、他の認知症に関連した事業の充実に活かせる新たな **チャンス!** が生まれることを期待している。

= 東浦町としても **チャンス!**



POINT!



本人ミーティングを開催し、AさんとBさんの両ご夫婦を誘うと参加を希望。

★他の事業にも繋がられる!

(Aさんご夫婦は参加。Bさんご夫婦は孫の体調が悪くなり、看病のため不参加。)

じぶん サミット in 東浦
ぜひご参加ください!
認知症当事者の皆さんの声を聴かせてください

「じぶんサミットinひがしうら」は、認知症の当事者の方が集まり、日ごろの思いを語り合う場です。お好み焼きを作って食べながら、ワイワイお話しして楽しみませんか?

日時 2018年6月28日(木)
11:00~13:00

場所: 東浦町勤労福祉会館 (2階会議室2)

対象: 東浦町在住の認知症当事者の方
(ご家族も一緒に参加できます。)

参加費: お1人につき¥200 (昼食代)

お申込み・お問い合わせは
東浦町高齢者相談支援センター ☎0562-82-2941
※6月25日(月)までにお電話でお申し込みください。

新たな **宝物** を探しに・・・

・ 認知症のある当事者やその家族、認知症サポーターのニーズ調査を実施→施策に反映を目指す!

POINT!



当初は、新オレンジプランに照らし合わせ、事業を揃えていくことに必死。

着任3年目あたりから、「今年の目標は何か」「今年の重点的に取り組む事業は何か」を行政と推進員で話し合い、3年スパン、5年スパンのビジョンを考えながら、事業展開を検討するようになりました。





全国の推進員へのメッセージ

- ・自分の地域でやれること、推進員自身の**強み**に自ら気づくことで、当初は予期していなかった **チャンス!** まれる可能性があります。事業展開をする上で、逐一、地域の**ニーズ**に合っているものになっているのか、推進員自身の活動を**自らモニタリング**して改善していくことが必要です。
- ・推進員と初期集中それぞれが持つメリットや強みを**互いに尊重**することで、**互いが支援の受け皿**となり、**双方向支援**が可能となる。

**担当する自治体の地域共生社会
を実現するためのコーディネーター
の1人です！推進員だけで頑張ろうと
せず、他の職種と協働していきましょう。**

